

活用に関する基本的事項について（案）

1 整理の方針

- （１）「総論」の４つめの柱として、「活用に関する基本的事項」を位置づけることとした。活用の基本的考え方を明確に示し、活用の基本となる方法として食事摂取状況のアセスメントの方法について、整理することとした。また、活用に当たっては、指標別とともに、目的に応じた活用が重要であることから、その留意点を整理することとした。

全体を通して、基本となる考え方や概念については、それらの理解が深まるよう、図を用いて表現することとした。

〈 「４ 活用に関する基本的事項」の構成 〉

４－１ 活用の基本的考え方

４－２ 食事摂取状況のアセスメントの方法と留意点

- ・食事摂取基準の活用と食事摂取状況のアセスメント
- ・食事調査
- ・食事調査の測定誤差（過小申告・過大申告、日間変動）
- ・身体状況調査
- ・臨床症状・臨床検査の利用
- ・食品成分表の利用

４－３ 指標別にみた活用上の留意点

- ・エネルギー必要量
- ・推定平均必要量
- ・推奨量
- ・目安量
- ・耐受上限量
- ・目標量

４－４ 目的に応じた活用上の留意点

- ・個人の食事改善を目的にした活用（食事摂取状況のアセスメント、食事改善の計画と実施）
- ・集団の食事改善を目的にした活用（食事摂取状況のアセスメント、食事改善の計画と実施）

- (2) 活用の基本的考え方については、PDCA サイクルに基づく活用を基本とすることとし、食事摂取状況のアセスメントから始めるサイクルとした。
- (3) 食事摂取状況のアセスメントについては、活用の基本となることから、食事摂取基準の活用と食事摂取状況のアセスメントの概要を示すこととした。特に、食事調査については、目的や状況に応じた方法を選択する必要があることから、各種食事調査法の特徴（短所・長所）を整理するとともに、食事調査によるアセスメントの実施を促すために、妥当性と再現性が検証された食事調査票の例を盛り込むこととした。
- (4) 活用に当たっては、食事改善を目的として、個人の場合と集団の場合では、その活用方法が異なることから、それぞれの目的に応じた活用の留意点について整理することとした。活用の留意点については、目的に応じた活用の基本的概念を示すとともに、食事摂取基準を適用した食事摂取状況のアセスメント、食事改善の計画と実施に関する留意点を整理することとした。

2 記述内容について

資料3「報告書（案）」の23～47頁参照